リレー連載・しんりがく最新研究　第17回

子どもがキャラクターを好きなわけ

――幼児のキャラクター受容、理解、養育者の関連性

広島大学助教授　湯澤正通

キャラクターに囲まれた生活

とある保育園でのお昼寝の時間。

子どもたちは、パジャマに着替えながら、下着にプリントされたキャラクターについて、友だちと楽しげにお話を始める。……「これ、ウルトラマン」「同じね」。

下着だけではない。お弁当箱、ハンカチ、カバンなど、あらゆる子どもの持ち物にキャラクターがプリントされ、その様子は、学年やクラスにかかわらず、きわめてよく似ている。他方、子どもの身に付けるキャラクターを見ると、年齢や性別によって違いがあることに気づく。赤ちゃんクラスの子どもたちの持ち物には、顔の丸い穏やかな性格のキャラクターがプリントされているが、三、四歳以上のクラスになると、男の子は激しい戦いを繰り広げるヒーロー、そして、女の子はかわいらしいドレスを着たヒロインがプリントされている。そして、子どもたちは、そのキャラクターになりきり、キメのポーズをとりながら、ごっこ遊びを展開する。

このようにキャラクターは、現在の日本においては子どもたちの遊びや生活と密着した関係を持っている。しかし、「子どもたちがキャラクターを好きなわけ」については、実のところ、良くわかっていない。そこで、私たちは、バンダイ・キャラクター研究所の研究助成を得て、幼児期の子どもが年齢や性別によって特定のキャラ

クターを好む理由についての調査を行った。ここでは、その調査結果について報告することとする。

さて、大人側の世界にも目を向けてみよう。

日本はマンガ大国と称される。サラリーマンは通勤電車でマンガを読み、女子高生の携帯電話には人気キャラクターのストラップが揺れている。アニメ映画を親子で楽しみ、その帰り道には、キャラクター商品のおまけのついたファーストフードを口にする。もはや、キャラクターは子どもだけのものではなく、日本の商業社会においては、商品の付加価値をも高める存在となっている。

かくいう私もキャラクター商品のおまけにつられ、大人買い（箱ごとあるいは大量に買う行為……これは子どもたちの羨望の的である）をしてしまった炭酸飲料を数か月にわたって飲み続けたという苦い（甘い）経験がある。

これほどまでに日本の大人社会にキャラクターが受容されているならば、キャラクターに対する大人の態度が、子どものキャラクターの好みに影響しないわけがないのではないか。養育者が子どもの成長に強い影響を及ぼしていることは周知の事実である。

子どものキャラクターの好みを考えるうえで、養育者側からの影響も考慮する必要があろう。かくして、養育者にも協力してもらい、養育者のキャラクターに対する態度が子どものキャラクターの好みにいかに影響しているのかについても検討した。

しんりがく 最新研究

幼児が好むキャラクター

幼児期の子どもは、実際に、どのようなキャラクターが好きなのであろうか。まずは、子どもたちが好むキャラクター像を探ってみよう。

調査を行ったのは、三歳から六歳の子ども九一人である。子どもたちに、一二種類のキャラクターの写真を見せながら、各キャラクターが好きか嫌いかを尋ねた（とても好き二点、少し好き一点、好きじゃない〇点）。そして、キャラクターの好みの得点について因子分析を行い、子どもが似たような好き嫌いの傾向を示すキャラクターをグループ分けした。その結果、四つのグループに分かれた。第一に、ウルトラマンコスモス、仮面ライダーアギト、ガオレッドの「男児用キャラクター」であった。第二に、どれみ、セーラームーン、キティの「女児用キャラクター」であった。第三に、バイキンマン、ヤバイバ、オヤジーデの「悪役キャラクター」であった。

ＢＣ：男児用キャラクター、ＧＣ：女児用キャラクター

ＮＣ：中性キャラクター、ＥＣ：悪役キャラクター

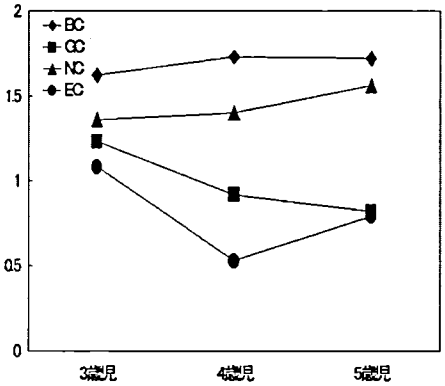

図１　年齢による男児の好みの変化

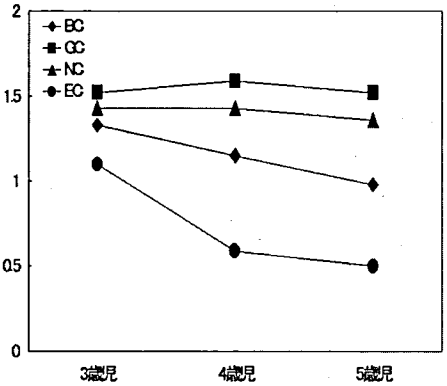

図２　年齢による女児の好みの変化

第四に、バーバーパパ、ドラえもん、アンパンマンの「中性キャラクター」であった。図１、図２には、各年齢の男児と女児がそれぞれのグループのキャラクターをどの程度好んでいるかをまとめている。

図からもわかるように、男児はとくに男児用キャラクターを好み、女児は女児用キャラクターと中性キャラクターを好んだ。このような性別による好き嫌いの分化は、すでに三歳児ではっきりと見られ、年齢とともに異性用のキャラクターや悪役キャラクターへの好みが低下した。

キャラクターの好みに影響する認知的要因

では、どうしてキャラクターに対する好みは、性によって分化するのだろうか。私たちは、子どもたちに、一二種類のキャラクターの好みと同時に、各キャラクターの認知に関するいくつかの質問を行い、相互の関連性を調べた。以下、その分析結果をもとに、キャラクターの好みに影響する認知的要因について考えてみよう。

第一に、キャラクターについての「知識」である。男児は、男児用キャラクターと中性キャラクターについてより詳しく知っていたが、女児は、中性キャラクターに

ついて一番、次に、女児用キャラクターと男児用キャラクターについてよく知っていた。一般に、子どもは、好きなキャラクターについて、進んで知識を身に付け、逆に、テレビなどを通してよく知っているキャラクターを好きになる傾向があるだろう。

第二に、各キャラクターについて男の子向けか女の子向けかを判別する「性役割認識」である。一二種類のキャラクターについて、子どもが男児向け（もしくは女児向け）とみなしたキャラクターと、それ以外のものとで、好きの程度に違いがあるかを分析した。図3、図4は、それぞれ男児向けまたは女児向けとみなされたキャラクターの好み得点を示している。男児・女児ともに、自分と同じ性の子ども向けであるとみなしたキャラクターをより好んでいることがわかる。すなわち、幼児期、子どもは性のアイデンティティを獲得するが、そのことがキャラクターの好みに強く影響していると考えられる（自分は男の子で、男の子はウルトラマンが好きだから、自分もウルトラマンが好きである）。

第三に、各キャラクターの優しさといった「特性理解」である。これに関して、あるキャラクターを優しいとみなした場合、それを同時に好きだと判断する傾向が

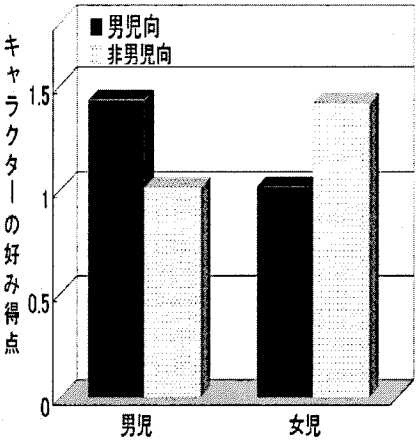

図3　男児向けとみなされたキャラクターとそうでないものの好み得点

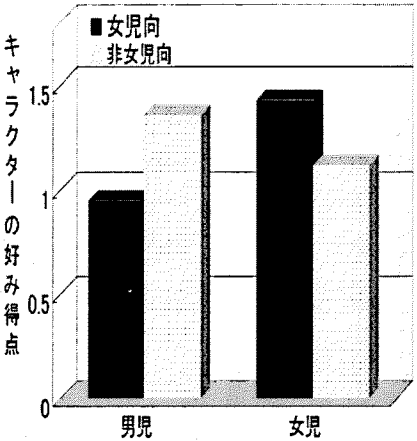

図4　女児向けとみなされたキャラクターとそうでないものの好み得点

年少児に見られた。また、女児に関して言えば、男児用キャラクターや悪役キャラクターといった自分の性と異なるキャラクターについて、優しくないとみなすほど、そのキャラクターへの好きな気持ちが低下した。

養育者の態度と子どもの好み

最後に、子どものキャラクターの好みや認知が、キャラクターに対する養育者の態度とどのように関連しているかを検討した。先に調査した子どもたちの養育者にアンケート調査を実施し、一二種類のキャラクターが自分の子どもにとってどの程度好ましいか、また、実際に、一二種類のキャラクターをどの程度買い与えているかを尋ねた。すると、子どもの性別や年齢によって、養育者の好ましさの認識に違いはなく、また、養育者による好ましさの評定と子どもの好きな程度にはほとんど関連性(相関)がなかった。他方、養育者は、男児に男児用キャラクターを、女児に女児用キャラクターを買い与え、三、四歳児に中性キャラクターを多く買い与えた。

また、共分散構造分析によって、男児用キャラクターの好みならびに女児用キャラクターの好みを説明する因果モデルを検討した。図5、6は、最も説明率の高かったモデルを示したものである。図では、それぞれ矢印が影響関係を示し、数値が影響の大きさを示している。

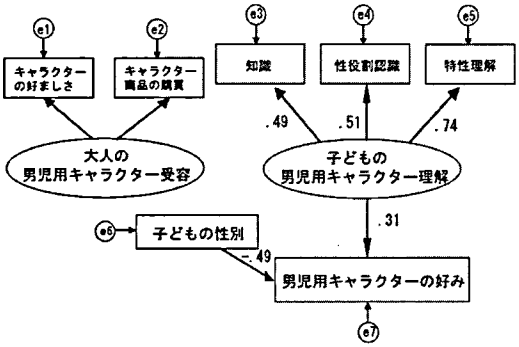

図5　男児用キャラクターの好みを説明する因果モデル

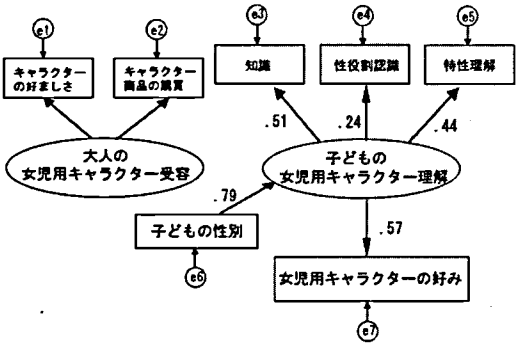

図6　女児用キャラクターの好みを説明する因果モデル

両キャラクターに共通して、大人のキャラクター受容と、子どものキャラクター理解、もしくはキャラクターの好みとの間に、意味のある関連性は見いだされなかった。一方、子どものキャラクター理解とキャラクターの好みは、密接に関連していた。

このことは、養育者の態度が子どもによるキャラクターの好みに直接的な影響を及ぼしていないことを意味している。養育者は、男児には男児用キャラクター、女児には女児用キャラクターを買い与えていたが、それは、子どもが「そのキャラクターを好き」だから買っているに過ぎないのである。

＊　＊

ここで、再度、図5と図6を見比べると、興味深いことに気づく。図5では、子どもの性別が子どものキャラクターの好みに直接影響を及ぼしているのに対して、図6では、子どもの性別は子どものキャラクター理解に影響を及ぼし、それが子どものキャラクターの好みに影響を及ぼしている。すなわち、男児の場合、もともと男の子だから、ウルトラマンのような男児用キャラクターを好きになるという傾向が強いのである。男児用キャラクターは、男児の生得的とも言えるような好みに合致していると言える。それに対して多くの女児は、キャラクターについて性役割の観点から認識を深め、その結果、女の子が好むと期待されるキャラクターを好きになる。

このように、性に応じたキャラクター受容は、養育者による働きかけによるものよりはむしろ、子ども自身の興味やキャラクターの理解に支えられているのである。

しんりがく 最新研究

【文献】

(1) 湯澤正通・湯澤美紀「男の子はなぜウルトラマンが好きなのか　幼児の性役割認識の発達とキャラクター選好」日本発達心理学会第一三回大会発表論文集、二〇〇二

(2) 湯澤正通・湯澤美紀「男の子はなぜウルトラマンが好きなのか　幼児のキャラクター選好・知識と保護者の態度との関連」日本発達心理学会第一四回大会発表論文集、二〇〇三

(3) 湯澤正通「幼児によるキャラクター受容と理解に関する研究」第一回バンダイ・キャラクター研究者育成支援スカラシップ研究報告書、二〇〇三